

QUARTERLY REPORT OF JAPAN HEART FOUNDATION

No.231

心臓財団 季報

JUN.10, 2018

公益財団法人
日本心臓財団〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1小田急第一生命ビル4階
●Tel 03-5324-0810 ●Fax 03-5324-0822
●e-mail: info@jhf.or.jp ●URL: http://www.jhf.or.jp

平成30年度 日本心臓財団事業計画

日本心臓財団の平成30年度の事業計画をお知らせいたします。本年度も数多くの研究助成をはじめ、さまざまな心臓病の予防・治療に対する啓発活動を行ってまいります。これらは皆さまのご支援に支えられておりますので、よろしくお願い申し上げます。

I 個人研究に対する助成事業

1. 第44回日本心臓財団研究奨励
(9月公募予定)
2. 第9回日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励
(9月公募予定)
3. 第9回日本心臓財団入澤宏・彩記念女性研究奨励
(9月公募予定)
4. 第6回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成
(9月公募予定)

II 研究者の留学費用に対する助成事業

1. 第32回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成
(10月公募予定)

III 学会および研究会に対する助成事業

1. 公募助成
 - 1) PCI Technical Education Course
 - 2) TOPIC 2018
 - 3) 特発性心室細動研究会
 - 4) その他、審査委員会で承認された循環器関連学会
2. 指定助成・共催
 - 1) 第40回美甘レクチャー
(日本循環器学会特別招聘講演)
 - 2) 第31回日本循環器病予防セミナー

IV 共同臨床研究等に対する助成事業

1. 虚血性心疾患に関する研究
2. 虚血性心疾患と脂質低下療法に関する研究
3. 慢性心不全に関する研究

4. 弁膜症に関する研究

5. 糖尿病と心血管病に関する研究

6. その他

V 指定研究等の実施・助成事業

1. 予防医学のための家庭心電計普及活動

VI 個人または団体に対する褒賞事業

1. 第44回日本心臓財団佐藤賞
2. 第43回日本心臓財団草野賞
3. 第33回日本心臓財団予防賞
4. 第14回日本心臓財団小林太刀夫賞
5. 第23回日本心電学会学術奨励賞

VII 広報啓発事業

1. インターネット・メディアによる啓発活動
 - 1) ホームページ・セカンドオピニオン等
 - 2) ACジャパン支援キャンペーン「心臓の叫び」
2. 日本循環器学会・日本循環器病予防学会との協力事業
市民公開講座の開催(共催:日本循環器学会)
3. 予防啓発小冊子の発行
4. 「健康ハートの日」活動
5. 禁煙推進活動
6. AED・心肺蘇生普及活動
7. 日本心臓財団メディアワークショップの開催
8. 患者団体・予防活動団体への協力
9. 日本川崎病研究センター事業への協力
10. 月刊誌「心臓」の発行(日本循環器学会との共同発行)
11. 機関紙の発行など

第33回 日本心臓財団 予防賞



受賞者

上嶋 健治

京都大学医学部附属病院
相談支援センター
センター長(教授)

日本心臓財団予防賞は、地域社会に密着し、循環器疾患予防に長年貢献もしくは学術研究開発に功績のあった団体あるいは個人に贈られるものです。第32回は『循環器病予防への多面的アプローチ』に関する実績で、上嶋健治氏が選ばれました。

来る6月22日の第54回日本循環器病予防学会学術集会(会長:斎藤重幸 札幌医科大学保健医療学部看護学科基礎臨床医学講座内科学分野 教授)授賞式にて賞牌および副賞50万円が贈られます。

第14回 日本心臓財団 小林太刀夫賞

受賞者

尼崎市ヘルスアップ 戦略グループ

日本循環器管理研究協議会(現・日本循環器病予防学会)初代理事長の名を冠した日本心臓財団小林太刀夫賞は地域と密着して、循環器病を中心とした生活習慣病予防のために長年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を挙げた活動、あるいは予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、栄養士の個人または団体に贈られるものです。第14回受賞は『市民への戦略的・継続的な循環器疾患予防対策の推進と医療費適正化への実現』による実績で、尼崎市ヘルスアップ戦略グループが選ばれました。

来る6月22日の第54回日本循環器病予防学会学術集会(会長:斎藤重幸 札幌医科大学保健医療学部看護学科基礎臨床医学講座内科学分野 教授)授賞式にて賞牌および副賞50万円が贈られます。

贈呈式

去る平成30年3月25日(日)、第82回日本循環器学会学術集会(会長:澤芳樹 大阪大学大学院心臓血管外科学教授)の開催中、リーガロイヤルホテル大阪にて平成29年度日本心臓財団研究奨励金 第31回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成金 贈呈式が行われました。

助成対象者の皆様、おめでとうございます。(助成対象者のお名前は前号および心臓財団ホームページに掲載されています)

また、選考委員の先生方、澤会長をはじめご祝辞をいただきました方々、ご参列いただきました方々に深く御礼申し上げます。



研究奨励



海外留学助成

健康寿命を延伸し、活力ある高齢社会を築くために

公益財団法人日本心臓財団理事長 矢崎義雄

超高齢社会では 循環器病に対する対策が重要

超高齢社会を迎えたわが国では、4人に一人が高齢者になりました。今後ますます高齢者の割合が増加していく時代に、活力ある高齢社会を築くためにはどうしたらよいのでしょうか。

現在、わが国は世界に誇る長寿国として、平均寿命が男性では80歳、女性では87歳になっていますが、健康寿命との差が男性では約9年、女性は約12年あります。この間、高齢者は疾病ないし障害を抱えながら過ごすことになります。また、高齢者が疾病などにより日常生活機能に障害を来すようになると急速に自立機能が低下し、要介護に至るフレイルという状態になります。このフレイルの状態にある方々が現在600万人に達しており、将来は900万人になると予想されています(図1)。

このようなフレイルを予防し、要介護の人たちをなるべく少なくするのが、活力ある高齢社会を築く基本となります。要介護の4分の1は循環器病(心血管病や脳卒中)が原因です。また、要介護の半数が認知症であり、この認知症予防も重要なポイントです。この認知症の2割は脳卒中が原因であり、脳卒中の予防が認知症の予防にもつながるといわれています。

もう一つの社会的問題は、高齢化に伴う医療費の増大です。わが国の死亡原因の第1位はがんですが、医療費においては循環器病の占める割合が第1位で全体の約20%を占めています。65歳以上の医療費では、4分の1が循環器病となります(図2)。さらに、入院患者の将来推計をみると、がんは横ばいですが、循環器病は2倍以上に増えると予測されています(図3)。

このように、循環器病への対策をきちんと立てることこそが、健康寿命を延伸し、高齢者の生活の質を向上させ、また治療や入院を減らすことで医療費の負担を抑えることになります。

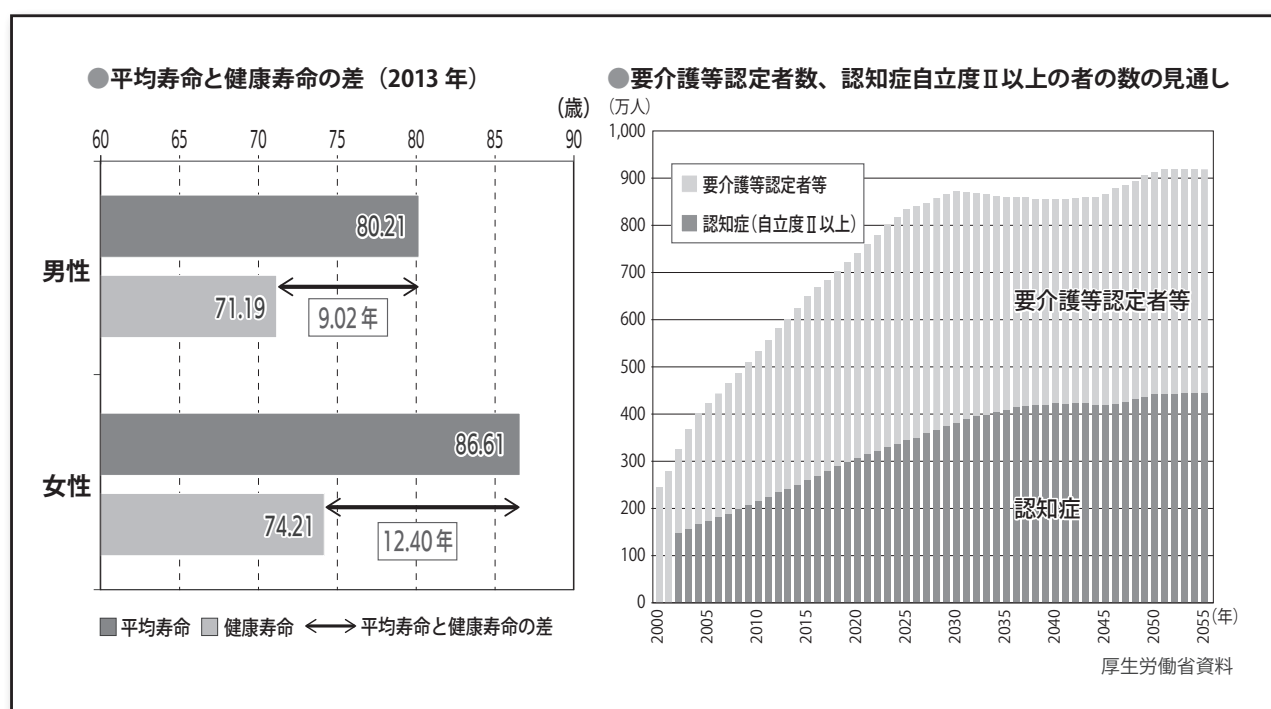


図1：平均寿命と健康寿命の差と、要介護等認定者数の今後の見通し

健康寿命を延伸し、活力ある高齢社会を築くために

循環器病の一次予防

では、循環器病とはどのような病気でしょうか。循環器とは、全身に血液を送る心臓と、その血液を全身に循環させるための血管からなるシステムであり、私たちの生命維持には欠かせないものです。そこに障害が起これば、脳梗塞や肺梗塞、心筋梗塞など様々な病気が起こります。こうしたシステムの障害が起こる原因は、生活習慣病といわれる高血圧、高血糖、高コレステロール、肥満などであり、これらが血管系の動脈硬化を起し、その結果として循環器病が発症します(図4)。

こうした循環器病の予防は、高齢者にとって最も重要なフレイル、認知症予防対策であり、まず疾患の発症を防ぐ、その病気の前の段階である未病への対策(一次予防)が重要になります。そのためには、まず子どもの頃から生活習慣病についてしっかり学ぶ教育が必要です。そして成人になれば定期的に健康診断を受け、病気になる前に危険因子を発見して対策をとることです。こうした教育や健診システムの構築は、自治体や国が横断的に取り組んでいく必要があります。

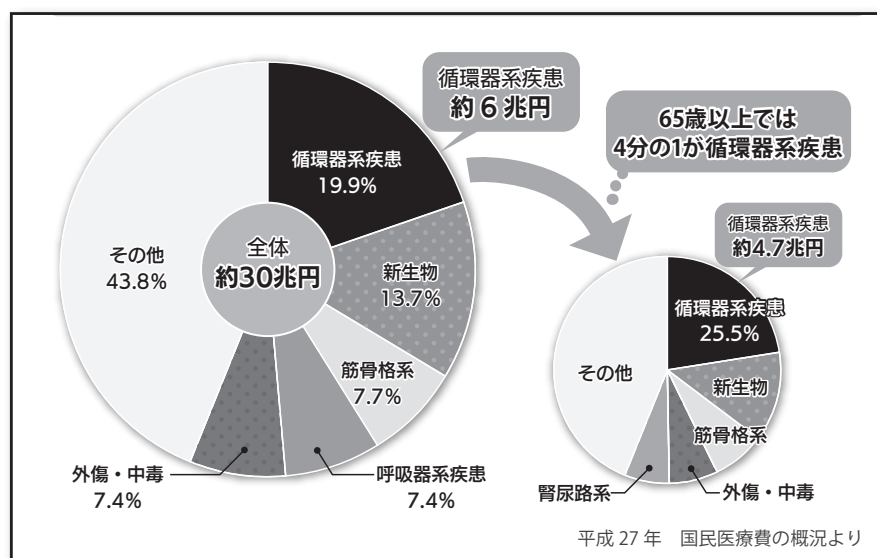
循環器病の診断・治療対策と再発予防
(二次予防)

図2：医科診療医療費に占める循環器病の割合

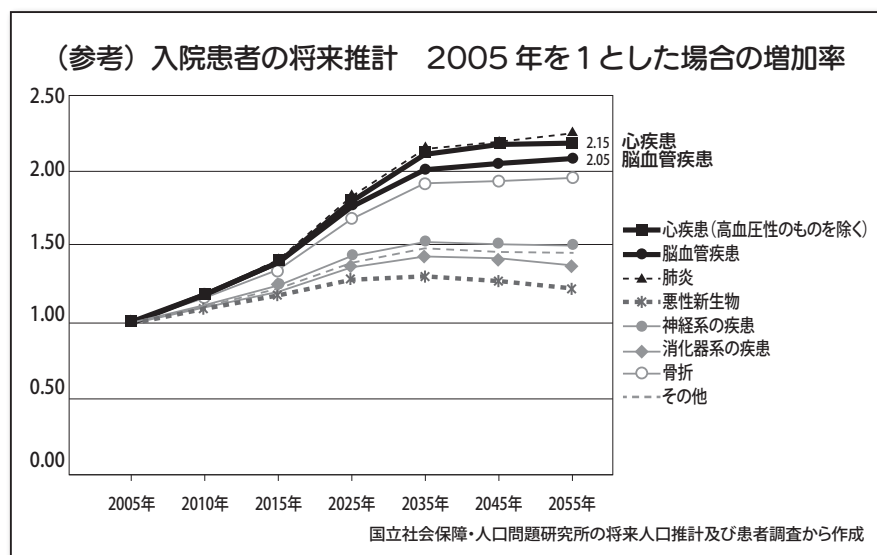


図3：入院患者の将来推計

循環器病の中でも生命を脅かす危険な病気は、脳卒中と心筋梗塞です。脳卒中は倒れた後、4.5時間以内に血栓溶解療法を行うことが脳の機能障害を少なくして社会復帰するための重要な治療になりますが、この血栓溶解療法の実施が進んでおりません。脳梗塞発生数の5.7%にしか実施されていないという統計結果があります(図5)。これを改善するためには、脳梗塞の拠点病院を的確に配置して緊急治療体制を整える必要があります。一方、心筋梗塞では血栓溶解療法の治療は普及していますが、心室細動という不整脈による突然死が注目されています。これを防ぐために、AEDという一般市民が使用できる除細動器が近年急速に普及しましたが、実際にはまだ4.7%しか使用されていません。AEDの普及だけでなく、躊躇なく使用できる人を増やすためには、学校教育に組み込むことが必要になります。

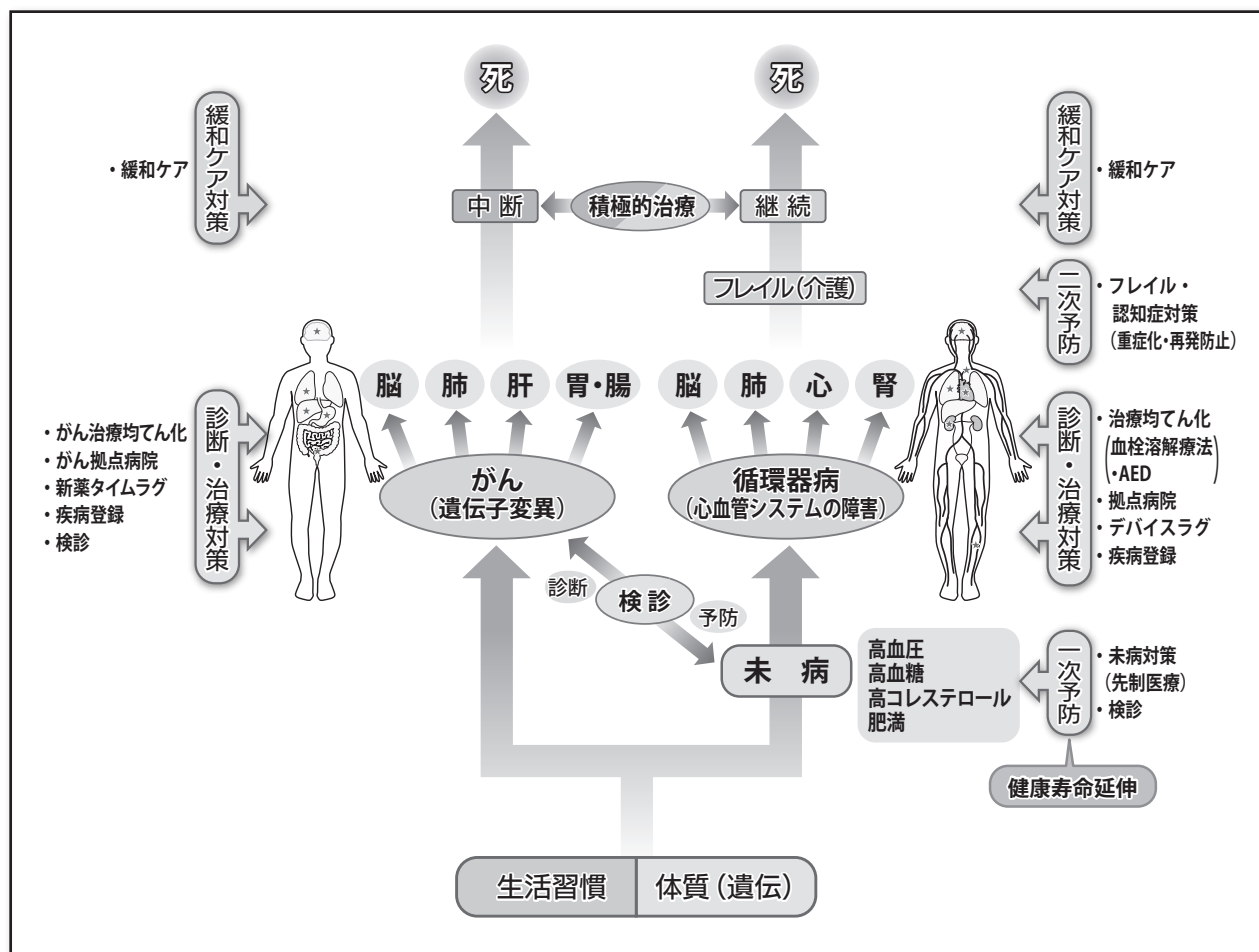


図4：がんと循環器病対策の基本的なストラクチャー

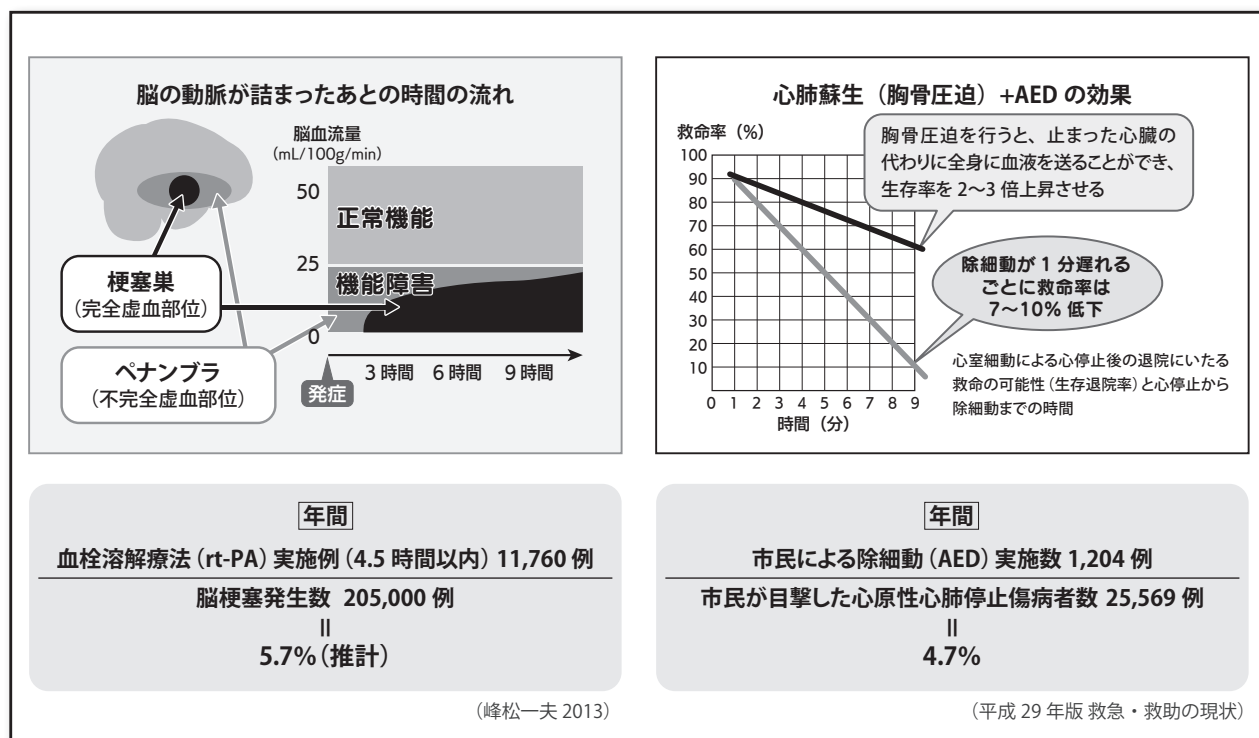


図5：循環器疾患の至適救急医療とは

健康寿命を延伸し、活力ある高齢社会を築くために

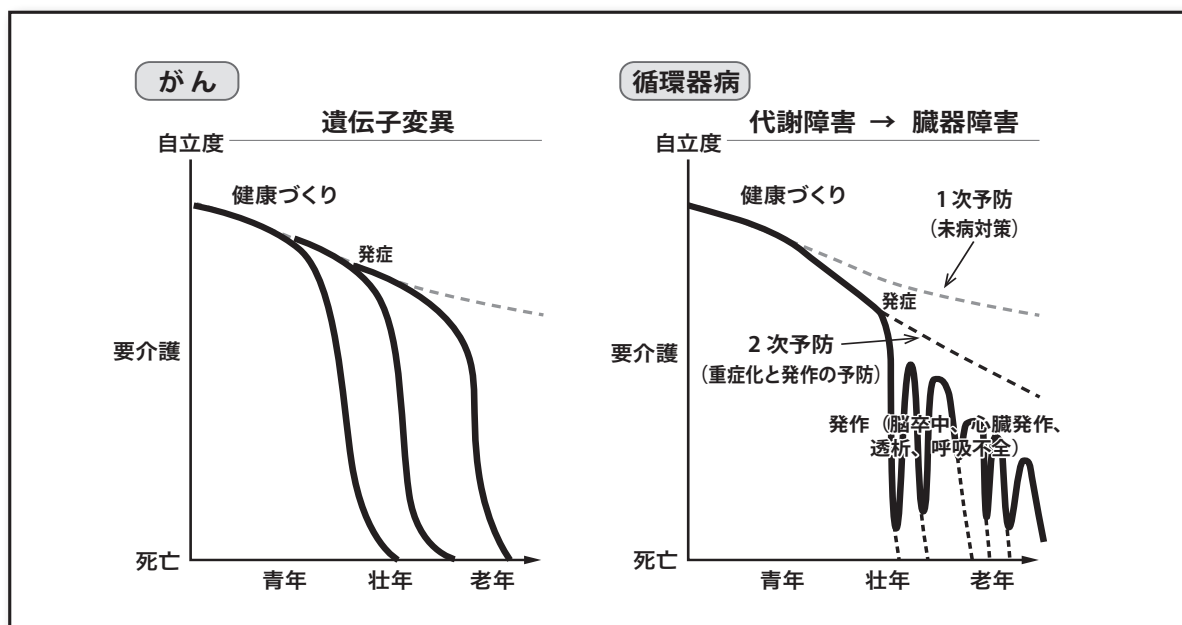


図6：がんと循環器病の経過モデルの相違

さらなるフレイル・認知症対策は、再発を防ぐ二次予防です。拠点病院を的確に配置することは、血栓溶解療法のためにも重要ですが、心筋梗塞、脳梗塞になった人たちの再発予防にも重要になります。専門施設でしっかりフォローアップすることが、再発予防に非常に効果的であることは研究でも明らかになっており、医療の均てん化がフレイルによる衰退を予防し、要介護者を減らす二次予防の鍵となります。

がんと循環器病の違いと、対策基本法の重要性

このように、循環器病対策は、未病段階の一次予防、診断・治療、二次予防と各段階での予防対策が明らかですが、遺伝子変異が原因であるがんは一次予防、二次予防が基本的になく、早期発見による治療しかありません。タバコを吸わないとか、前癌病変の治療など、一次予防的なものもありますが、循環器病の未病対策としての血圧やコレステロール対策とは少し違います。

ですから、疾患発症後の経過モデルも異なります(図6)。がんの場合には、早期発見により治療すればまた通常の生活を送ることができますが、治らない場合には発症後、次第に自立度が下がっていき、やがて死に至ります。循環器病の場合には、たとえば心筋梗塞や狭心症などを発症すると一度、自立度が下がりますが、

治療により元に戻ります。しかし、再発してしまうと、大きく自立度が下がってしまいます。また回復も遅くなります。そして再発と治療を繰り返しながら、だんだんフレイルが進んでいきます。ですから、一次予防、二次予防が重要になります。

こうした予防には、もちろん個人の生活習慣に対する意識も重要ですが、行政による政策も必要です。

さらに、もう一つ、行政の力を必要とするのは疾病登録です。がんは平成18年に「がん対策基本法」が成立されて、がん登録が正式に発足し、がん治療に関するビッグデータを集めることができるようになりました。それによってエビデンスに基づいた治療や新しい治療法の開発などに威力を発揮しています。循環器病においても疾病登録を行うことによって、医療の均てん化や疾病対策、新しい治療法の開発など、がんと同様の効果が見込まれます。しかし、これは法的根拠がないとなかなか実行化されません。

こうしたことから現在、日本心臓財団と脳卒中協会が中心となり、各関連学会とともに、「脳卒中・循環器病対策基本法」の成立を行政に訴えています。健康寿命の延伸をはかり、フレイル・要介護を防止し、活力ある高齢社会を築くためには、基本法の成立とそれを基にした長期計画の実施が喫緊の課題なのです。

教室(医局)・病院(医院)・医師会賛助会員の皆様

日本心臓財団と日本循環器学会が共同発行している月刊誌「心臓」の発行と当財団の運営を支えていただいている賛助会員の皆様を感謝の意を表して掲載させていただきます。

教室(医局) 賛助会員

北海道大学循環器内科
札幌医科大学循環器内科
弘前大学循環器腎臓内科
東北大学循環器内科
東北医科薬科大学循環器内科
山形大学第一内科
福島県立医科大学循環器内科
筑波大学循環器内科
自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科
獨協医科大学心臓・血管内科
獨協医科大学越谷病院循環器内科
群馬大学循環器内科
千葉大学循環器内科
埼玉医科大学国際医療センター心臓内科
日本大学循環器内科
駿河台日本大学病院循環器内科
帝京大学循環器内科
帝京大学附属溝口病院循環器内科
帝京大学ちば総合医療センター循環器内科
日本医科大学循環器内科
日本医科大学多摩永山病院循環器内科
日本医科大学千葉北総病院循環器内科
東京大学循環器内科
順天堂大学循環器内科

東京医科歯科大学循環器内科
慶應義塾大学循環器内科
東京医科大学循環器内科
東京医科大学八王子医療センター循環器内科
東京慈恵会医科大学循環器内科
東京慈恵会医科大学葛飾医療センター循環器内科
東京女子医科大学東医療センター心臓血管診療部
昭和大学藤が丘病院循環器内科
東邦大学医療センター大橋病院循環器内科
杏林大学循環器内科
横浜市立大学循環器内科
聖マリアンナ医科大学循環器内科
北里大学循環器内科
東海大学循環器内科
東海大学付属八王子病院循環器内科
新潟大学循環器内科
富山大学第二内科
金沢大学循環器内科
金沢大学先進総合外科
金沢医科大学循環器内科
信州大学循環器内科
浜松医科大学循環器内科
名古屋大学循環器内科
三重大学循環器内科

滋賀医科大学呼吸循環器内科
京都大学循環器内科
関西医科大学循環器内科
奈良県立医科大学第1内科
大阪大学循環器内科
近畿大学奈良病院循環器内科
神戸大学循環器内科
島根大学循環器内科
広島大学循環器内科
山口大学循環器内科
徳島大学循環器内科
愛媛大学循環器内科
高知大学老年病・循環器・神経内科
九州大学循環器内科
福岡大学心臓血管内科
福岡大学筑紫病院循環器内科
佐賀大学循環器内科
長崎大学循環器内科
熊本大学循環器内科
大分大学循環器内科
宮崎大学循環器内科
鹿児島大学心臓血管内科

病院(医院) 賛助会員

江別市立病院
北海道大野病院
北海道社会事業協会帯広病院
札幌中央病院
札幌心臓血管クリニック
札幌東徳洲会病院
旭川リハビリテーション病院
仙台厚生病院
仙台赤十字病院
本荘第一病院
三友堂病院
福島赤十字病院
国際医療福祉大学病院
新小山市市民病院
茨城県立中央病院
常陸大宮済生会病院
慶友会慶友整形外科病院
千栄会高瀬クリニック
田口会新橋病院
博仁会第一病院
輝城会沼田脳神経外科循環器科病院
鶴谷病院
北里大学メディカルセンター
埼玉県立循環器・呼吸器病センター
さいたま市民医療センター
深谷赤十字病院
関越病院
東葛病院
板橋中央総合病院
江戸川病院
関東中央病院
榊原記念病院
聖路加国際病院心血管センター
虎の門病院
武蔵野赤十字病院
東大和病院
小田原循環器病院
国際親善総合病院
横浜栄共済病院
済生会横浜市南部病院
新潟県立がんセンター新潟病院

済生会富山病院
富山赤十字病院
金沢医療センター
抱生会丸の内病院
岐阜総合医療センター
澄心会岐阜ハートセンター
慈朋会澤田病院
東海中央病院
松波総合病院
聖隷浜松病院
市立湖西病院
澄心会名古屋ハートセンター
名古屋第二赤十字病院
藤田保健衛生大学坂文種報徳會
大台厚生病院
永井病院
伊勢赤十字病院
新宮市立医療センター
近江八幡市立総合医療センター
亀岡病院
京都桂病院
京都第一赤十字病院循環器内科
洛西ニュータウン病院
穀峰会吉田病院
大阪府三島救命救急センター
りんくう総合医療センター
小松病院
北播磨総合医療センター
神戸アドベンチスト病院
三栄会ツカザキ病院
製鉄記念広畑病院
高清会高井病院
健生会土庫病院
誠佑記念病院
公立那賀病院
しげい病院
東広島医療センター
済生会広島病院
福山循環器病院
県立広島病院
岩国医療センター

美祢市立病院
済生会今治病院
今治第一病院
喜多医師会病院
近森会近森病院
済生会福岡総合病院
杉循環器内科病院
原三信病院
福岡市医師会成人病センター
福岡新水巻病院
福岡記念病院
小倉記念病院
春陽会うえむら病院
新小文字病院
熊本赤十字病院
済生会熊本病院
大分岡病院
都城市郡医師会病院
青仁会池田病院
鹿児島県立北薩病院
鹿児島市医師会病院
鹿児島生協病院
かりゆし会ハートライフ病院
翔南会翔南病院
豊見城中央病院

医師会 賛助会員

日本医師会
群馬県医師会
埼玉県医師会
東京都医師会
太田市医師会
沼田利根医師会
藤岡多野医師会
前橋市医師会
上尾市医師会
さいたま市与野医師会
狭山市医師会
本庄市児玉郡医師会
葛飾区医師会

日本心臓財団の主な活動報告(3～5月)

行 事

3月4日(日) 日本循環器学会市民公開講座(日本心臓財団共催)「心臓を長持ちさせる秘訣って、なに?」開催(大阪市中央公会堂)



市民公開講座

3月9日(金) 平成29年度第2回理事会開催。平成30年度の予算および事業計画決定(本誌1ページ)

3月16日(金) 第43回日本脳卒中学会学術集会総会(福岡)にて日本心臓財団草野賞授与。

3月23日(金)～25日(日) 第82回日本循環器学会学術集会(大阪)参加。

授賞式にて日本心臓財団佐藤賞、「心臓」賞授与。平成29年度日本心臓財団研究奨励金、第31回日本心臓財団・パイ

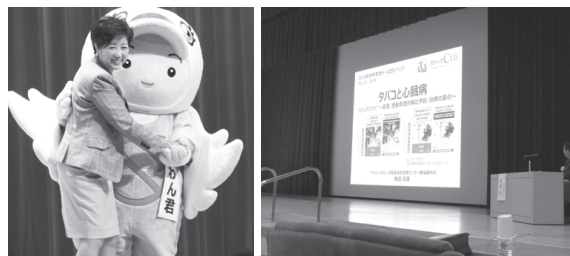
エル薬品海外留学助成金贈呈式。展示会場に日本循環器学会とともに日本心臓財団ブース展示。

5月9日(水)～11日(金) 第46回日本血管外科学会学術集会(山形)

5月23日(水) 平成30年度第1回理事会開催。平成29年度決算報告。

5月31日(木) 世界禁煙デー記念イベント開催(日本医師会館)

日本心臓財団が加盟している、たばこと健康問題 NGO 協議会、日本医師会等の共催によるシンポジウムが開催されました。日本循環器学会より禁煙推進キャラのすわん君も応援に駆けつけ、来賓の小池百合子都知事を歓迎。また、循環器の立場からは飯田真美先生が「タバコと心臓病」というテーマで講演されました。



世界禁煙デー記念イベント開催

当財団をご支援くださる方

個人賛助会員としてご支援をいただいた方々のご芳名を感謝の意を表して掲載させていただきます。(2018年3月～5月)

熊谷 喜久江 様 小池 城司 様 古賀 義則 様

当財団へご寄附をいただいた方

次の方々からご寄附を賜りました。ご芳名を感謝の意を表して掲載させていただきます。(2018年3月～5月)

株式会社アクセル 様	市川 保定 様	エーザイ株式会社 様
大倉 絵梨 様	大野 義弘 様	小川 匡春 様
小澤 良男 様	楠元 達也 様	坂本 めぐみ 様
佐藤 啓詞 様	佐堀 竹子 様	清水 亨 様
昭和エンジニアリング株式会社 様		高橋 佳代 様
トーアエイヨー株式会社 様		服部 範雄 様
樋上 猛 様	藤田 祥人 様	前田 拓也 様
峯岸 瞳 様	村本 英治 様	八木 健次 様
山内 章三 様	山本 和子 様	山本 達雄 様
他 匿名7名		

■小さなハートをつなぐ基金

古田 恵子 様

■セカンドオピニオン

大西 章 様 斎藤 信治 様 補永 洪三 様 安武 順子 様

ご寄附のお願い

日本心臓財団は、循環器病を克服するため、研究助成、予防啓発、さらに循環器病に関する皆様からのメール相談などを行ってまいりました。今後もこのような活動を継続させていただけますよう、皆様からのご支援をお待ち申し上げております。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当財団は公益財団法人の認定を受けておりますので、当財団へのご寄附は税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

また、税額控除に係る証明を取得しておりますので、個人の方からのご寄附につきましては所得控除と税額控除のいずれか一方を選択いただくことができます。

■三井住友銀行 丸ノ内支店

普通 0801474

■三菱東京UFJ銀行 丸の内支店

普通 4025878

■ゆうちょ銀行

一般振替口座 00140-3-173597

(ゆうちょ銀行 〇ー九(ゼロイチキュー)店

当座 0173597)

口座名: 公益財団法人 日本心臓財団

ザイ) ニホンシンソウザイダン